

再評価【番号4】

一級河川吉野川水系
学島川

1. 河川の概要

吉野川市川島町～山川町

流域面積 $A=7.6\text{km}^2(760\text{ha})$

流路延長 $L=5.1\text{km}$



H16台風23号 出水時



H23台風15号 出水時



3. 事業の進捗状況

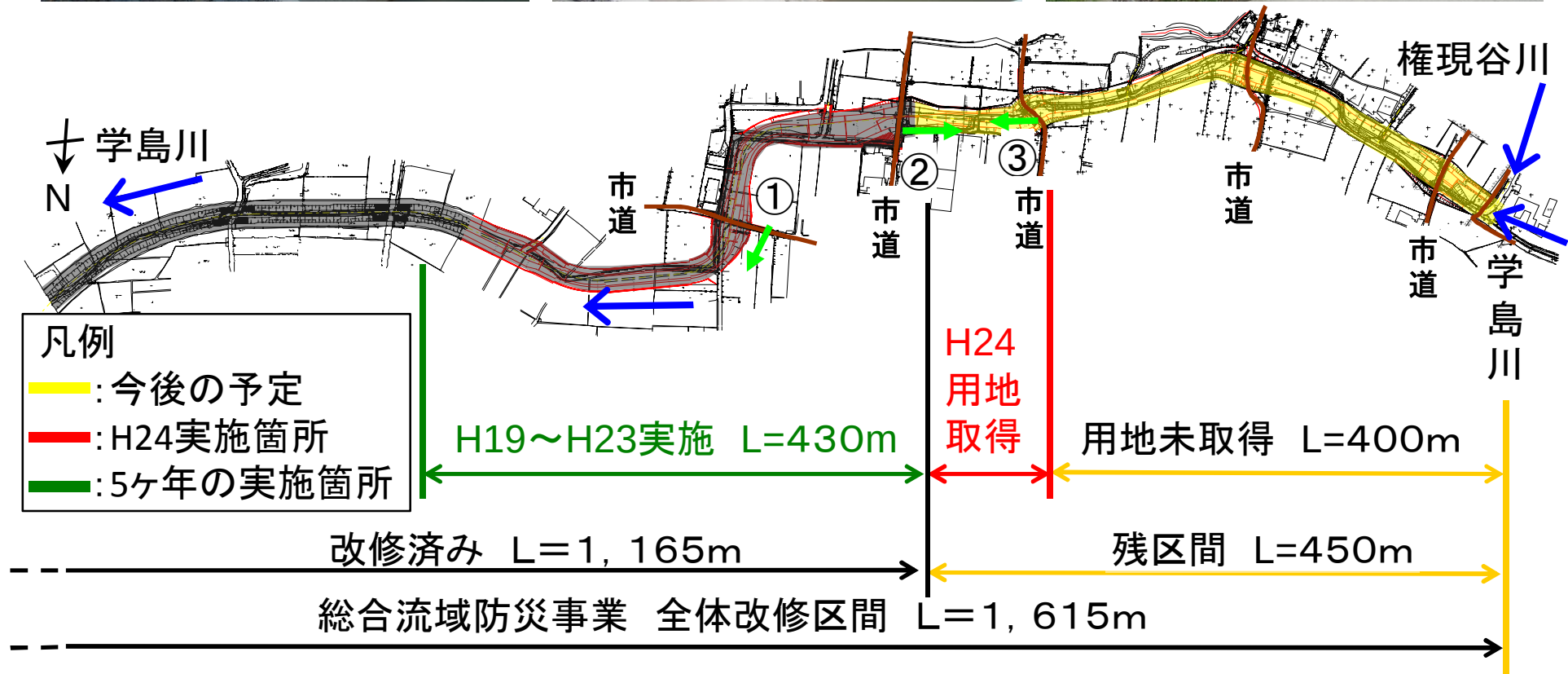
①改修済み



②改修済み区間上流端



③未改修



4. 河川事業のB/Cについて



$$\text{事業実施前の被害額} - \text{事業実施後の被害額} = \text{被害軽減額(便益)}$$

便益(B)に計上されている項目	
直接被害	家屋・事業所被害
	農作物被害
	公共土木施設等被害
間接被害	事業所等の営業停止被害
	応急対策費用

費用(C)に計上されている項目
建設費
維持管理費(整備後50年間)

5. 貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

水害による直接被害の軽減

①浸水区域内人口（出水1回当たり）

事業着手時 → 本事業完成后

128人 → 58人

→約55%の被害軽減

②避難所の浸水

川島公民館学西分館

（収容人数：30人）

→災害発生時の機能維持

③水害廃棄物の発生

（出水1回当たり）

着手時 → 完成后

16.3t → 3.4t

→約80%の被害軽減



水害による波及被害の軽減

①市道途絶による避難所への移動

移動困難の解消

→地域防災力の向上

②下水道の機能停止による波及被害の軽減

山崎南污水处理場

→生活環境の維持

③浸水区域外への

波及被害の軽減

浸水区域内の工場（ゴム製品中間生産）
の被災による区域外への出荷能力の低下

→経済停滞の解消



防災・減災に加えて

事業完成后、浸水区域外となった地域の地価の上昇

地価決定の評価項目

『近接街路』『交通』
『環境』『災害の危険性』

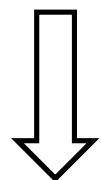
危険性がない場合

地価評価
4%上昇

6. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 営業停止被害
- ・ 応急対策費用 など



被害軽減期待額
= 便益 B

計 27.4 億円
(現在価値化後)

費用 C = 18.3 億円
(現在価値化後)

$$\underline{B / C = 1.5}$$

貨幣価値に表れない整備効果

直接被害の軽減

- ① 浸水区域内人口の減少
- ② 避難所の機能維持
- ③ 水害廃棄物の発生減少

間接被害の軽減

- ① 市道途絶解消
- ② 下水道の機能維持
- ③ 浸水区域外への波及被害軽減

地価の上昇

事業完成後、浸水区域外となった
地域の評価が上昇

■ 今後の対応方針 (案)

事業継続